



# 優駿会同窓会会報

獣医・畜産・応用動物同窓会(関連講座含む)

令和4年9月

## (1) 令和3年度(2021年度)優駿会同窓会開催報告

令和3年10月30日(土)、優駿会同窓会がWeb会議サービス「Zoom」を用いてオンラインにて開催された。本年度は、優駿会総会の後、ヤンソン賞受賞者4名による講演を企画した(事前参加登録者53名)。

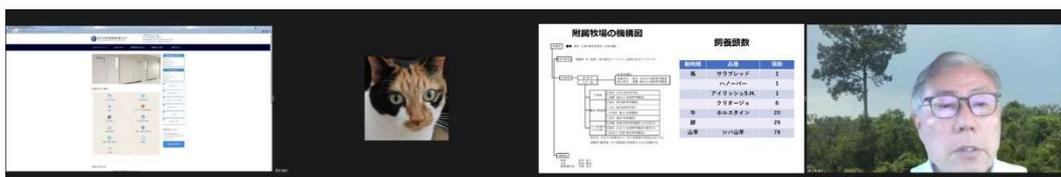


## 優駿会総会

### ① 獣医学・応用動物科学専攻の現状報告

堀正敏獣医学専攻長および高橋伸一郎応用動物科学専攻長から、それぞれ獣医学専攻、応用動物科学専攻の現況について報告があった。さらに、西村亮平附属動物医療センター長および桑原正貴附属牧場長から、それぞれ附属動物医療センター、附属牧場の現状について報告があった。





## ② 会計報告

杉浦幹事から令和2年度の収支決算報告ならびに令和3年度の間接報告が行われた。

## ヤンソン賞講演会

本年度は、令和2年度から3年度にかけて獣医学・応用動物科学専攻で新たに准教授に着任した4名の教員がヤンソン賞を受賞し、講演を行った。

### ① 片岡 直行（細胞生化学研究室）

#### 『RNA プロセッシングとRNA 病』

高等真核生物では、スプライシングが遺伝子発現には必須である。その過程に破綻を来した場合、ヒトでは疾患として現れる場合が多い。そのような疾患を「RNA 病」と呼んでいるが、異常スプライシングを是正することでRNA 病治療へと繋がると期待される。



### ② 伯野 史彦（動物細胞制御学研究室）

#### 『血中アミノ酸プロファイルによる未病診断と先制医療』

低タンパク食をラットに給餌すると、血中アミノ酸プロファイルの変化が原因となって肝臓や筋肉に脂肪が蓄積することを証明した。現在は、生活習慣病を血中アミノ酸プロファイルから未病状態で診断し、食による先制医療を目指して研究を進めている。



### ③ 清川 泰志（獣医動物行動学研究室）

### 『ラットの情動コミュニケーション』

演者はラットにおいて、嗅いだ個体に不安を惹起する警報フェロモンと、安寧をもたらす安寧フェロモンの研究を進めてきた。またこれらのフェロモンを研究することは、ラットの野生型であるドブネズミを制御する方法を開発することに繋がると期待される。



### ④ 松脇 貴志（獣医生理学研究室）

#### 『感染ストレス環境下における中枢性ストレス反応機構』

本講演では、古くから知られる感染性発熱についての分子生物学的な再検討で明らかになった最新の知見に加えて、我々が見出した雌優位性感染性体温低下症の中枢神経による制御機構の解析結果について紹介した。



内藤会長より、西村亮平先生（応用遺伝学教授）が次年度の優駿会会長となることが報告された。

